

個

五年 筆順 10
フン オン コ

成り立ち



固く固まった「かたまり」という意味の「固(4年508)」と、「イ」とを組み合わせて作った字です。

「独立した「ひとりの人」という意味の字です。

そのことから、人を数えるのに「一個、二個」と数えるようになりましたが、今では、物を数えるのに使っています。

〔中国では、人を数えるのに、今でも、「二個人、二個人」と数える。物を数えるのに、「箇」という字があったが、この字が常用漢字にないため、「個」が使われるようになったものである。〕

使い方

▽今は個人のプライバシーが守られにくい時代です。コンピュータには、個人的な秘密までが、入っているといわれます。個人の秘密は、あくまで守ってもらいたいものです。

▽人の性格は千差万別で、個性は一人一人違ってきます。個性は、その人一人一人のもので、大切に守り育てていってほしいと思います。

熟語例

▽個人(二人の間。一人一人、独立した人間)

▽個性(その人だけが持っている、他の人とは違う性質)

▽個体(一つ一つ、独立して存在するもの)

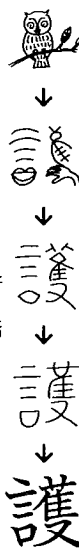
▽個々(一つ一つ。一人一人。「個々の意見をまとめて、全体の意見を調整を図る」などというふうに、つかいます。)

▽別個(それとは別のもの。「わたしとしては、それとは別個の意見を持っているのですが」などというふうに、つかいます。)

護

五年 筆順 20
フン オン ゴ

成り立ち



「みみずく(ふくろうに似た鳥)」の形を表した「萑」と、手の形を表した「又」と、「言」とを組み合わせて作った字です。

「みみずくを取ろうとする人に、取ってはいけないよ」と言っ、「かばう」ことを表した字です。「まもってやる」ことです。例守護、保護、援護、警護。

使い方

▽今年は例年になく大雨が続く、家を流されたり、水がかぶったりした人が多く、救護活動をする人も大変でした。

▽東京では、外国の要人を招いての会議が多く、警護の人の姿を多く見かけました。

熟語例

▽守護(守ること。特殊な用語として、鎌倉・室町時代に、各地方の守り手として置かれた役人を言います。)

▽保護(弱い者を守ること。「小学生が参加する際には、保護者のつきそいが必要です」などというふうに、つかいます。)

▽援護(応援し、守ること。「後ろから援護した」などというふうに、つかいます。)

▽警護(警戒し、守ること。「警固」とも書きます。この時は、警戒し、守備を固める、という意味あいになります。)

▽加護(神仏が、守護を加えること。「神仏のご加護で、ふしぎに命をながらえた」などというふうに、つかいます。)